

# 中国青島市における交通機関の言語景観についての一考査

劉 潔<sup>1)</sup>・大橋 眞<sup>2)</sup>・岸江信介<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>青島理工大学外国語学院・<sup>2)</sup>徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

## Study on linguistic landscapes of the public transportation facilities of Qingdao city in China

Jie Liu<sup>1)\*</sup>, Makoto Owhashi<sup>2)</sup> and Shinsuke Kishie<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Qingdao University of Science & Technology, <sup>2)</sup>The University of Tokushima

### Abstract

Globalization trends will change the people's mind for traveling beyond the national boundary for economic and cultural activities. Such trends thus affect the linguistic landscape of the traveling spots in the world-wide. In the present study, we studied the linguistic landscape of the public transportation facilities of Qingdao city where the government nominated it as one of the 10 newly developing areas in China. The survey results indicate that most of the signs of lobbie for international passengers in Qingdao Liuting International Airport were indicated by multiple languages including Japanese and Korean, whereas signs of the parking area are indicated mainly by Chinese. The signs of the Qingdao railroad station were also indicated by English or appropriate figures in addition to the Chinese. More than 60% of the sings in the facilities of the long distance bus terminal were indicated by English in addition to Chinese, whereas that in the bus terminal for undersea tunnel that connects between Qingdao and Huangdao area was indicated mainly by figures of universal design. The signs of those facilities should be innovated by replacing with multi-linguistic signs. and/or figures for visiting foreigners as soon as possible.

Key word (globalization, linguistic landscape, Qingdao city, public transportation facility)

### 1. 緒言

グローバル化の時代を迎え、国境を越えた経済交流や文化交流に関わる活動が次第に盛んになってきている。いわゆるモノの流通だけではなく、経済活動や文化活動に関わるヒトの移動も全世界で活発になってきている。このような多様な人が関わる多元化的な経済活動や文化活動に伴って、それらの活動に必要な交通手段のニ

ーズも必然的に高まっているといえよう。より正確な言い方をすれば、交通手段の発達グローバルな経済行為を支えていると考えられる。教育的な背景、文化的背景、宗教上の信仰、生活方式などが異なる人々が接触・交流し、多様な物流のニーズが発生することによって多様な交通システムが整備されることが急務になってくると思われる。

中国の経済は、1978年に国家政策としての改革開放政策を取り入れたことにより、世界各国

---

Jie Liu<luciajie123@gmail.com >

との人的交流が急激に増えており、それに伴って経済活動も急速に発展している。これに関連して、青島市は1985年に経済開放区に指定された。それ以降、青島市は山東半島の中心都市として経済発展が著しく、経済活動や文化活動の拠点としての発展を見せている。このような背景のもと、観光、ビジネス、文化活動等の目的で青島市を訪れ、長期にわたって滞在する外国人も次第に増えている。また、青島市は沿海都市であり、日本や韓国とは距離的にも近いことから、主に経済活動のために滞在する外国人としては日本人や韓国人が、大きな比率を占めているが、中国語が流暢に話せる人はまだそれほど多くはない。

このような状況の中で、青島市を国際都市として発展させるために、様々なインフラ施設の整備が進められてきた。特に交通施設においては、外国人のために、多言語表示の案内板が整備され始めるようになっている。

今回の調査は、青島における主要な交通施設の表示物である。これら交通施設において、設置されている案内板の言語表記について、どのような多言語表示がなされているかに焦点を絞り、調査を実施した。

## 2. 調査内容

### 2.1 調査の方法

今回の調査では、青島市における主要な交通施設（青島駅、青島長距離バス乗り場、青島海底トンネルとそのバス乗り場、青島流亭国際空港）を対象とした。表記されている言語について、各表記板を目視により調査を行った。また必要に応じて、デジタルカメラを利用して表示物の撮影を行い、記録につとめた。

### 2.2 調査対象の背景

今回対象とした4つの交通施設（青島駅、青島長距離バス乗り場、青島海底トンネルとそのバス乗り場、青島流亭国際空港）の設立経緯等は次の通りである。

#### 1) 青島駅

青島駅は青島市の鉄道駅の中で一番大きな施設であり、町の都心に位置している。面積は

5,500平方メートルあり、歴史的にも青島における交通の要衝としての機能を果たしてきた。

#### 2) 青島長距離バスの乗り場

1991年12月20日に完成した施設であり、現在まで使用されている。ここを発着点とする長距離路線は200以上もあり、11,776平方メートルの面積がある。このように、国家一級の長距離バスターミナルになっており、国内の主要都市間を結ぶ主要な交通施設である。

#### 3) 青島海底トンネル及びそのバス乗り場

2010年4月28日に青島と黄島を結ぶ青島海底トンネルが竣工した。その長さは7,800メートルあり、現在のところ、中国最長の海底トンネルである。以前は、青島から黄島までのルートとして、フェリーと長距離バスしかなく、所要時間や運賃などの負担も多かったが、青島海底のトンネルの完成により、これらの問題が一挙に解決した。

#### 4) 青島流亭国際空港

近年、沿海都市としての青島市は経済成長が著しい。特に2008年オリンピックヨットレースが開催されたことにより、青島流亭国際空港の整備が進められた。このような空港機能の拡張により、青島流亭国際空港の旅客数が激増している。現在、国内外の57の都市との間に航空便が就航しており、国内線だけではなく、国際線を利用する人々で混雑している。

以上、これらの四つの調査対象地域は、青島において最も重要な交通施設であるが、それぞれ特徴があり、歴史的な経緯や、交通施設としての機能や位置も異なり、利用する人々にも違いが見られる。このような理由から、今回の言語景観調査では、これらの四つの地域を調査対象に指定し、それぞれの地域の言語景観上の特色を比較し、考察することにした。

### 2.3 調査区域

調査対象としたエリアを以下のような区域にそれぞれ分け、調査を実施した。

#### 1) 青島駅（鉄道）

- A 入口、出口
- B 関係サービス案内区域
- 2) 青島長距離バスターミナル
  - A 入口、出口
  - B 関係サービス案内区域
- 3) 青島海底トンネル
  - A トンネル内
  - B バス乗り場
  - C バス内
- 4) 青島流亭国際空港
  - A 空港国内ロビー
  - B 空港国外ロビー
  - C 駐車場

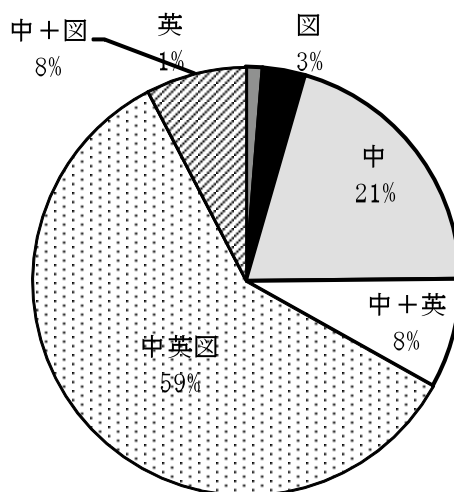


図 1 青島駅の指示・案内板で使用される多言語表示の割合

### 3 調査結果

#### 3.1 青島駅



写真 1 青島駅における指示・案内の看板

青島駅の案内看板は、大部分が中国語と英語で表記されていた。他の国の言語は見つからなかった。また、絵や地図などのように、言語以外の指示・案内の看板も見られた。このように案内板には、中国語だけ、英語だけ、中国語と英語、中国語と指示図、中国語と指示図と英語、指示図（絵文字と呼ばれるピクトグラムを含む）だけというように、6種類に分類されるということが分かった。今回記録した写真は全部 157枚があるが、駅内の看板は、中国語と英語を併記されたものが、全体の7割近くに達しており、さらに図を併用したものが多かった。その他の言語表示はほとんど見かけなかった。これに対して、中国語のみの表記も約2割あった。



写真 2 床面に設置された案内・表示版

#### まとめ

青島市は沿海地域に位置し、対外的に開かれた都市として知られている。近年の中国の経済的發展に伴って、青島市へ来る外国人はますます増えている。このためにターミナル駅という交通要衝にある施設における案内の看板は、中国語以外に英語の表記が標準化してきている。これは、外国人利用者に対する配慮としては、ある程度のレベルに達していると言えよう。しかし、日本語や韓国語などの表記は、全く見られなかった。

經濟發展に伴い、外国や国内の他都市から青

島市へ来る人が増えることが予測される。中国においては、人の移動の手段として、依然として鉄道が大きな役目を果たしている。これらのことから、鉄道駅の案内板等での多言語での表記の必要性が高いと思われる。しかしながら、今回の調査により鉄道の利用者は、中国国内の利用者が依然として多く、中国と英語を併記する形の表示が最も多いと思われる。

近年中国においては、高速鉄道網の整備が急速に進んできている。これは、これからの経済成長に伴う国内輸送力をさらに増強させるため、鉄道が重視されていることを意味している。中国の新幹線「和調号」は、今後も多くの外国人利用客が見込まれる。この中には、英語圏以外の国々、例えば、日本人や韓国人の中にも青島駅から鉄道を利用する人が多くなっていくことが予測される。そのために、今後は駅において英語以外の言語を併記した多言語表示の案内板の整備を期待したい。

### 3.2 青島長距離バスの乗り場



写真3 長距離バスの乗り場の表示板  
A 長距離バスの乗り場案内、B 切符売り場、C ターミナル内の看板、D 危険物の展示コーナー、E 待合室、F 改札口

調査の結果から青島の長距離バス乗り場では中国語と英語を併記した表示物は全体の約68%を占め、最も多いことが判った。その次は中国語専用の表示物は約30%である。日本語や韓国語による表記はまったく見られなかった。

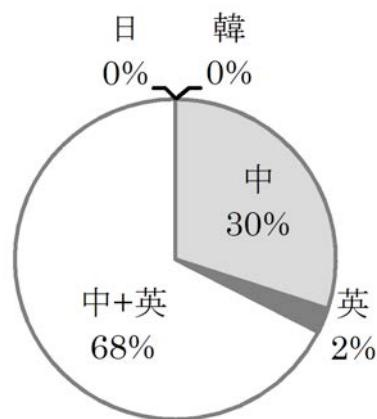


図2 青島長距離バスの乗り場での多言語表示

#### まとめ

国内の長距離バスの乗り場であっても、国内の居住者が多い日本人や韓国人のために、日本語や韓国語の表示があると予測していたが、実際に調査をしてみると、中国語、英語以外の表記は、全く見られなかった。

青島の長距離バス乗り場内の案内表示板は中国語だけではなく、中国語に英語を併記した表示が多いことがわかった。長距離バスの利用者は、中国人が大多数を占めているもの関わらず、英語を併記したものが7割近くに達している。このような公共の施設では、現在の利用者の利便性を図るというよりもグローバル化への対応を政策的に進めた結果であると考えられる。中国語の表記は当然のことであるが、英語は世界共通の言語として最もよく使われている。そのために、中国語と英語を併記した表示がグローバル化に対応した最も一般的な表記法になると思われる。日本語や韓国語を併記した看板がみあたらないことも、グローバル化への対応を政策的に進めた結果として、一般的な表記である中国語に英語を併記した看板が多くなったことを示していると思われる。

### 3.3 青島海底自動車トンネル



写真4 青島海底自動車トンネルにおける言語表示物の例。A 禁煙指示のプレート、B トンネルを通過する2番バス車内の路線図、C 身体障害者対応のトイレを示すピクトグラム、D バス乗車案内、E 車内の非常口案内

表1 青島海底トンネル内の道路と、海底トンネルを利用するバス乗り場、及びバスの車内において使われている言語の種類

文字種	トンネル内		バス乗り場		バス内	
	数	割合	数	割合	数	割合
中のみ	4	14.3%	20	100%	8	30.8%
図のみ	6	21.4%	0	0%	4	15.3%
中+英	2	7.1%	0	0%	6	23.1%
中+図	4	14.3%	0	0%	6	23.1%
中英図	8	28.6%	0	0%	2	7.7%
中図ピンイン	4	14.3%	0	0%	0	0%
総計	28	100%	20	100%	26	100%

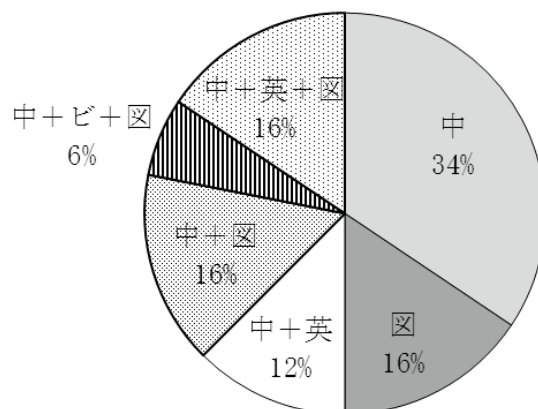


図5 トンネルにおける多言語表示

表4及び表5に示すように、トンネル専用バス乗り場での看板及びバス内の看板の表示法は、かなりの多様性がある。その中でも、特に文字とピクトグラムの組み合わせ、またはピクトグラムなど図単独による表示が多く、全体の約50%を占めている。中国語に英語を併記しただけの看板は、全体の2割にも満たなかった。将来的にはこのトンネル内表示も多くの外国人や中国語を理解しない人などが利用する可能性もあり、多様な利用者に対して判りやすいサービスを提供するため、文字以外に直感的に理解しやすいユニバーサルなピクトグラムなど「絵文字・絵単語」が頻用されていると思われる。最近完成したこのトンネルにおいては、中国語を理解できない乗客に対しても、容易に施設を利用できるような配慮がなされていると言えよう。

それに比べてバスの乗り場での掲示板は全部中国語で表記しており、英語の併記はあるが全体の約7割弱にとどまっている。これは現在のバス乗り場の利用者は中国人が大部分を占めていることと、将来増加する可能性のある外国人利用者も、英語が理解できるという前提に基づいて、現在の言語表示物が設置されたことが浮き彫りにされた。

### まとめ

青島海底トンネル内の道路と、海底トンネルを利用するバス乗り場では、中国語での表示が圧倒的に多い。現在のところ、トンネルを利用する人は、そのほとんどが黄島に住んでいる中国人であり、現状のような中国語だけの表示だ

けで、特に問題はないと思われる。将来的にも黄島に行くためにトンネルを利用する人で中国語が理解できない人は英語を理解するか、図を用いて最低限の情報伝達をすることで、十分に実用上は問題がないという判断で、このような施設の言語表記が設計されていると思われる。このような施設においては、看板の実用性が最も大切な役目あり、当局はそれさえ果たせば良いと判断していると推測した。

しかしながら、国際化に伴い、ここに住む居住者は中国人以外に、外国人も段々増えることが予測されるため、中国語だけの言語表示では不十分である。今後の課題として、多言語での案内板整備などを進めていく必要があると考えられる。

### 3.4 青島流亭国際空港



写真5 青島流亭国際空港における多言語表示

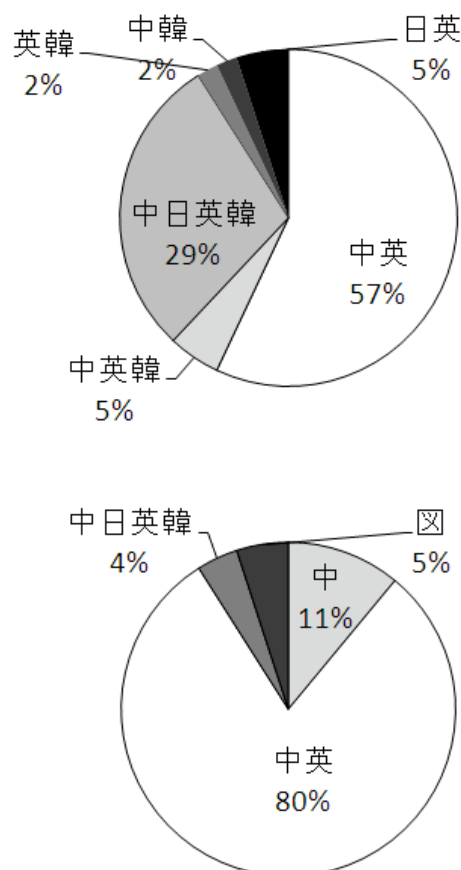


図6 青島流亭国際空港国際線ロビー（上）と国内線ロビー（下）において使われている言語の種類

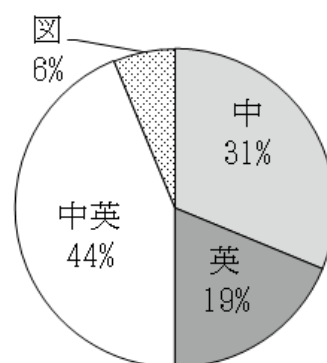


図7 青島流亭国際空港の駐車場において使われている言語の種類

図6、7に示すように、空港のロビーでは中国語、日本語、英語そして韓国語という4ヶ国語が使われている。まず、国内線及び国際線ともに中国語と英語の両国語での表示が最も多いこともわかった。次に多かったのは4ヶ国語で

の表示である。特に国際線ロビーでは、これらの4カ国の言語での表記がされている。これに対して、中国語だけの表示は5ヶ所だけであった。このように、空港のロビーでは多言語表記が進んでいるのに対して、駐車場では多言語表示の割合は相対的に低く、使用言語は中国語と英語のみであった。

#### まとめ

今回の調査結果は、ある程度予想していたように、国際空港の名にふさわしく、多言語による表示が進んでいた。特に国際線ロビーにおいては、中国語、英語、日本語そして韓国語を併記した多言語表示が、多くの案内板に取り入れられていた。さらに言語だけでなく、ピクトグラム、言語とピクトグラムの併用など、その目的に応じた表記法が取り入れられていた。身体障害者のためにサービスを提供するピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた言語表示導入は日本などの空港と比較すると、その種類は今のところ多いとは言えないが、今後、次第に増えていくものとみられる。

次に看板の内容を見ると、空港での搭乗手続などの手順はもちろんのこと、交番、医療サービスの紹介及び航空保険サービスコーナー等の看板の説明も多言語や図で表示するなどの整備がなされており、外国人の利用者にも便宜を図っている。今回の調査を通じて、多種多様の看板の内容において工夫が感じられ、空港全体としてのサービスが実現されている。

さらに、看板の色についても、主に紺色とブルーを使っており、見やすい表示になっている。黄色や赤、緑などの使用に関しては、国際的に通用する色使いがなされており、すべて横書き表記に統一されている。

以上の調査結果によると、青島国際空港では案内板の多言語表示においては、名実ともに国際化に対応している。近年、中国の国際地位が上がってきたことに伴って、二回にわたって空港の拡張が行われてきた。その結果として、ハード面だけでなく、ソフト面でも国際基準に沿った利便性の高い空港として、整備が進んできていると言えよう。

#### 4. 考察

グローバル化が進むとともに街の景観にも様々な変化が見られる。その変化の一つが街の言語景観であり、多言語表示の案内板の整備や、看板の多言語化が見られる。このように、街に複数の言語が共存する状況を「多言語状況」と称している。多言語状況を調べ、分析することにより、その地域の外国語話者コミュニティの活力や、その施設の利用者にどのくらいの外国語話者が存在するかを知る指標となる。また、その地域のグローバル化への対応の現状に関する情報も得ることができる。

青島市は中国の海洋産業の中心都市であり、東部沿岸の重要な経済と文化の中心地でもある。また、青島市は国際的な沿岸リゾート地であると共に、東北アジアの国際海運センターや中国国内の主要な地方国際空港所在地であり、海空の交通の要衝である。また、青島市は中国国内の国家歴史文化名城に指定されており、国内外の注目を集めている。このような背景のもとに、この地に居留する外国人や、観光で訪れる外国人も増加しつつある。このように、国際化が進んできている青島市において、グローバル化に対応するための基盤施設、特に公共交通施設の多言語表示はどのように整備されているかが重要な課題となっている。

青島市を訪れる外国人が増えたこともあり、多言語を使用した多言語表示の看板が数多く設置された。その結果、地域社会が多言語表示に対して適応する能力が普及してきたと言えよう。このように、グローバル化が進むにしたがって、その地域社会において、多言語の共存が受容され、地域住民にも、そのような状況が積極的に支援されてきていると思われる。その結果として、公共交通機関や都会での各種案内看板だけでなく、チラシ、商業施設などの表記においても、多言語での表示が進みつつある。一方では、外国人観光客がその地域における外国語使用の拡大や地域社会の外国語能力の向上に大きく影響を与えている面がある。一般的に、公共交通機関や都会での多言語表示の案内は、外国人観光客が主な対象となっているようである。一方では、外国人の存在とは、ほとんど無関係な多言語表示もある。例えば、店名やブランド名な

どである。このような外国語での表記や多言語表示はファッション的な要素が強く、この場合には、表記の「表現性」が求められる。

いずれにしても、現象としての多言語化はこれら全部を取り込み、相互に影響を与えながら進んでいくことはまちがいない。グローバル化する現代社会においては、公共交通機関、案内看板の表記という外国人のコミュニティーのための表記が、店の看板の表記にどのような影響を与えていくのかが今後の注目すべき課題であろう。

今回の調査では、中国の青島市という経済発展が著しく、国際交流が盛んである経済開放区において、主な交通機関の案内板の言語表記において、多言語表示や外国語による表記がどのように進んでいるのか調べた。交通機関の案内板の言語表示がどのように普及しているのかについて調査をすることにより、その地域のグローバル化への対応の現状や政府の観光旅行への政策など、様々な情報を得ることができる。

今回調査した四つの公共交通機関の施設について、多言語表示が最も完備されていたのは青島流亭国際空港のロビー及び駐車場であった。国際空港の公共施設においては、外国語の種類が多く、国際語としての英語の表記や絵文字としてのピクトグラムの表記が一般的に普及していた。また、入口、出口、関係サービス案内区域、近くのインフラ、バス内など、英語を併記したものが普及していた。さらに、青島駅や青島海底トンネルにおいて、多くの指示図が設置されており、特に文字と図の組み合わせが、数多く普及していた。このように、中国においても、東部沿岸の経済開発区のような主な公共交通手段の公共施設においては、国際化に対応した多言語表示がかなりの程度にまで整備されてきたと言えよう。

このような多言語化現象が、グローバル化と一体化した現象であるのか、またその現象が他にどのような影響を与えるのかについては、今後の推移について注意深く観察する必要がある。青島はグローバル化とともに、これからの言語景観がもっと完備されると思われる。今後も、

青島の多言語化の動向を継続的に調査して、その動向を探ることにより、グローバル社会の動向を考察していく指標の一つとして確立していきたいと考えている。また、これからの青島及び中国の言語景観の多様化と分かりやすい表記をした案内板が増加することを期待したい。

注 この研究は、青島理工大学プログラム「多国言語景観の中日実地調査の比較」の一環として実施された。

謝辞 現地調査には、青島理工大学外国語学院日本語学部 102 班蔣雪、郭明玉等 11 名の学生の協力を得た。ここに感謝申し上げたい。

#### 参考文献

1. 劉 潔、大橋 眞、岸江信介 中国青島市黄島地区におけるショッピングセンターの言語景観 徳島大学地域科学研究 1, 57-69, 2012
2. 米 麗英、岸江 信介 シャンハイの日本人居住地における言語景観 徳島大学国語国文学 (24), 138-128, 2011
3. 米 麗英、岸江 信介 2010 年上海における言語景観について 言語文化研究 18, 165-181, 2010
4. 井上史雄 日本語の多言語景観:デパートと歓迎ポスター 明海日本語 14, 99-100, 2009
5. 江 源 言語景観研究の現状について 明海日本語 14, 67-75, 2009
6. 庄司博史 ペート・バックハウス, フロリアン・クルマス 日本の言語景観, 三元社 2009
7. 山下暁美 外国人集住都市の言語景観 明海大学外国語学部論集 22, 17-34, 2010